

---

# 流星群

デンジャラス じ～さん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

流星群

### 【Nコード】

N3475B

### 【作者名】

デンジャラス じゅさん

### 【あらすじ】

今日はクラスで同窓会。でも、僕は仕事があるからいけないんだ。大事な仕事をまかされたんだから。仕方ない。少しでもいいから、忘れないでほしいな。楽しんでくださいな。ではどうぞ。

## （前書き）

この作品はフィクションです。実際に登場人物はいたりしないので安心してみてちょ

空一面に広がる、星。

それぞれが、それぞれの色で輝いている。

きつと。

あいつは今頃。

楽しんでるんだろうな。

今日は高校のクラスと同窓会があったんだ。

僕のクラスは3年A組。

いろんな奴がいたよ。でも、みんないいやつらだった。

僕は、その同窓会を、欠席した。つというのも、仕事仕事で休みなんてもらえないからなんだけど。

僕は今回、とうとう、大事な仕事をまかされることになったんだから、文句なんかいつてらんない。

夜7時。おそらく、同窓会が始まっただろう。溜め息ひとつこぼしてから、パソコンと向き合った。

会いたい奴がいたんだ。

僕の初めての彼女。

最初は沙希から。僕は魔法にでもかかったかのように、一瞬にして彼女が好きになった。

いろんなところに行ったよ。彼女はすごいアクティブだったんだよ。遊園地。公園。水族館……。

凄く。幸せだった。

そんな幸せだった日々は、卒業式の日、終わりを告げた。

「亮君は、きつと、もつと素敵な人と出会えるよ。じゃあ、ね。」

彼女は泣いていたのだろうか。

ちなみに、僕は泣けなかった。

素敵な人なんて・・・いるはずなのに。

止められなかった。

そんな未練が残ってたから、ひょっとして・・・とかおもってたんだけどなあ・・・。

「ちよつと休憩してきますね。」

そういつて、向かったのは屋上。

外は、まだ雪さえふつてはいないものの、黙って立っているのが辛いほど凍える寒さだった。

空を見上げた。今日は空が眩しい。

一緒に、見たかったな。

一緒に、いたかったな。

星が流れてきた。

「あれっ。流れ星・・・」

びっくりした僕は、つい口に出してしまった。

そして、また別の星が落ちた。

「凄い・・・凄い！」

感動した。

両手を握り締め、ふっとこんな事を思った。

・・・流れ星に、三回願い事言ったら、願い叶うんだよな。

だったら。

「これだけたくさん流れ星がいるんだ。ひとつくらい願い叶えてくれよ。」

そして呟いた。

沙希が幸せになれますように。

あいつが笑って暮らせますように。

できれば一緒にいられますように。

}  
e  
n  
d  
}

（後書き）

いかがでしたか？楽しかったですか？せつなかったですか？つまんなかったんですか？これから、どんどん頑張っていきたいので、よろしくどうぞ。

ではまた、機会があれば。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3475b/>

---

流星群

2011年1月26日03時36分発行